

令和 6 年 6 月 27 日現在

機関番号：32677

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2023

課題番号：18K12533

研究課題名（和文）20世紀後半アメリカ合衆国におけるミュージアムの文化史と近代的芸術観の形成

研究課題名（英文）A Cultural History of Museums and Modern Conceptions of Art in Late Twentieth Century America

研究代表者

小森 真樹 (Komori, Masaki)

武蔵大学・人文学部・准教授

研究者番号：70808873

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、ミュージアムに見られる近代主義思想の現代のありようについて、フィールドワークを用いてより実態的に把握するものである。米国初の医学博物館を対象に、ミュージアムを通して科学・文化という概念が芸術へと変化するのか、また、同意なしの人体展示といった倫理的課題がいかなるメカニズムで生じるのかについて明らかにした。コロナ禍を経て現地調査に拠る当初の計画を変更したが、結果的にはミュージアムのデジタル化や社会運動論、パブリックヒストリーの成果を広く取り入れることによって、発展的に研究方針を修正することができた。成果は8本の学術論文、3本の分担執筆書、1冊の単著、12回の報告等で発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ミュージアム研究という分野横断的な特性を生かし、歴史学における思想史・文化史、文化人類学における博物館人類学や文化表象論、社会学における社会運動論や情報社会論、ポストコロナリズム理論や文化財科学等の成果を複合して実現した。

また、社会還元を重視し実践的に研究するパブリックヒストリーの研究・教育実践として位置づけ、成果を一般誌やウェブメディアでも発表した。さらに、自らオンラインジャーナルや展覧会を企画することで学術成果を普及する方法論についても実践的に探究した。

研究成果の概要（英文）：This research aims to gain a more in-depth and empirical understanding of the current state of modernism as observed in modern museums by employing fieldwork approaches as well as archival research. By focusing on the Mutter Museum, the first medical museum in the U.S., this research revealed how the concepts of science and culture have been transformed into art through the museum and curatorial activities. Through these processes, it suggested what ethical issues, such as the public display of human remains without consent, can arise in museums.

After the pandemic of COVID-19, the original research plan based on field research was revised. By incorporating analyses of the case study into studies of social activism, museum digitization, and public history, the scope of the research was broadened and improved. The results of the research were published in eight academic papers, three book chapters, one monograph, and twelve research presentations.

研究分野：ミュージアム研究、アメリカ研究

キーワード：ミュージアム 博物館 美術館 パブリックヒストリー 文化戦争 植民地主義 アメリカ 社会運動

様式 C-19、F-19-1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究の大きな視座は、近代以降のミュージアムの思想的意義を問うことである。こうした視座を持つミュージアム研究分野の先行研究を精査した結果、現代史の事例の不足、主流のミュージアムを中心とする偏り、資料の制約から来る実証性の弱さ、芸術学・文化人類学・医学史などで分野によって研究が分断されているという課題が確認された。

2. 研究の目的

したがって本研究の目的を、ミュージアムを近代主義を社会に実装する道具ととらえる思想史研究の限界を、現代アメリカにおける事例研究によって乗り越えることとした。具体的には、米国における芸術観の形成過程でミュージアムが持つ思想的影響力を、歴史的な社会の価値観の変化を考察しながら明らかにすることを目指した。

これを精査する適切な事例として、米国初の医学博物館ムター博物館を設定した。19世紀に由来するこの博物館の1975年以降現在までを対象に、人体コレクションの扱いに関する運営の変遷、医療分野の芸術「アルスメディカ」展覧会事業、コレクションのブランディングと商品開発などのミュージアムの活動についての調査を行った。

3. 研究の方法

文献収集に加えて、聞き取りや現地での観察など実地調査の方法を採用した。オーラルヒストリーの方法やミュージアム周辺コミュニティを対象としたフィールドワークを行うことで、項目1で示した歴史研究の資料的制限などの学術的課題を乗り越えようとしたためである。

計画を進める中で起こったコロナ禍の渡航制限等により、研究できる対象や採用できる研究方法が大きく変化した。同時に、コロナ禍の制約や急激な社会構造の変容を受けて、調査対象の活動の質も大きく変わり、この状況に合わせた適切な研究方法が必要となった。

こうした事情から、事業後半では研究の方向性を調整した。調査にはデジタル化された資料を用い、また、コロナ禍で行われたミュージアム活動、とくに急速に進んだデジタル化の状況調査も対象に加えた。またコロナ禍では社会運動がミュージアムや記念碑などの周辺領域で盛んに行われたことを受け、ミュージアムを主軸としつつ広く社会運動に関する調査も進めた。

こうした運動の現場としてのミュージアムを理解するために、研究の対象や実践を非専門家の領域へと広げる志向をもつ歴史学の分野パブリックヒストリーの枠組みに依拠して調査を拡大した。映画やドラマや社会運動やミュージアムなどをポピュラーカルチャーの領域として並べつつ関係させながら、その社会的影響力について考察する方法を採って研究を進めた。

4. 研究成果

上述した方針で計画を変更しながら進めたため、成果は大きくコロナ禍前後で分けられる。旧来の問題設定に基づいた研究は、現地での文献・実地調査に基づく論文‘Dead Bodies on Display: Museum Ethics in the History of the Mutter Museum’及び「遺体が芸術になるとき——医学博物館が拡張する「芸術」と医学教育の倫理」を発表した。医学芸術「アルスメディカ」に関わるキュレーション事業やコレクションのブランディングや商品開発などの考察を通じて、「文化」が「芸術」という装いを与えられる過程を分析した結果、現代の医学博物館運営において芸術事業が果たすべき倫理的課題が明らかになった。人体の扱いについての制度化や、実務面での適切な制度運用が必要であることと、同時にその困難である。また、教育機関

・事業において経営的観点が重視された場合に、学術的言説を制御する際の困難という課題も確認された。

こうした課題を理解するという視座に立ちつつ、同時にコロナ禍で調査手法が制限されたことから、政治的だったり倫理的に繊細な言説の扱いをポピュラーカルチャーの領域でも探究する調査を進めた。マンガや美術館教育等に関わるミュージアム事業や、コロナ禍の映像作品や社会運動について調査した結果は、論文「マンガは熱くないうちに蒐めろ——ミュージアムにおけるマンガ研究」「美術館の近代を〈遊び〉で逆なでする——あいちトリエンナーレ・ラーニングプログラム『アート・プレイグラウンド』」「拡張する社会運動の〈現場＝フィールド〉——K-POPファンダムのブラック・ライブズ・マターとネットミームの連邦議事堂襲」や、分担執筆「女性史美術館へようこそ——展示という語りと語りなおし」、及び、単著『楽しい政治——「つくられた歴史」と「つくる現場」から現代を知る』にまとめた。

ミュージアムのデジタル化の状況については、「コロナ禍で変容する「展示の現場」——第四のミュージアムのデジタル化」として刊行した。以前より進めていたデジタル化の状況調査「デジタル・ミュージアム・研究——デジタル時代のミュージアムとモノと場所」とも時代的な比較ができる形で発表した。

これら拡げて展開した調査をムター博物館の事例研究として統合させた結果なされたのが、論文「ミュージアムで『キャンセルカルチャー』は起こったのか？——脱植民地化と人体のアイデンティティ政治をめぐる博物館倫理」である。人体コレクションの扱いに関するミュージアムの倫理的改革が、旧来からの価値観と対立し、それがウェブ上の言論として先鋭化しコミュニケーション不全が起こった事件を扱った本研究では、社会及びミュージアムのデジタル化、及び、社会運動のコロナ禍・コロナ後のありようが先鋭化した形で見られ、2020年以降のミュージアムの倫理的課題について、ミュージアム周辺のコミュニティにおけるコミュニケーションの観点から枠づけた。

こうした言論状況に関してはまた別のミュージアムの事例についても研究し、「兵器化する科学主義——両論併記で「天地創造」を科学する博物館」「アフターマティブ・アクションとアメリカの『分断』」及び「共時間（コンテンポラリー）とコモンズ——ミュージアムの脱植民地化運動とユニヴァーサルイズムの暴力」の書籍・論文で公表した。

<引用文献>

- ①小森真樹「デジタル・ミュージアム・研究——デジタル時代のミュージアムとモノと場所」『立教アメリカン・スタディーズ』立教大学アメリカ研究所、40号、2018年3月、57-89。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計19件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 16件）

1. 著者名 小森真樹	4. 巻 83
2. 論文標題 兵器化する科学主義 両論併記で「天地創造」を科学する博物館（<特集1>立教大学史学大会：世界史における「学知」の政治的ダイナミクス）	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 史苑	6. 最初と最後の頁 89-117
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14992/00022700	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 宇山智彦	4. 巻 83
2. 論文標題 梅原報告・小森報告へのコメント（<特集1>立教大学史学大会：世界史における「学知」の政治的ダイナミクス）	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 史苑	6. 最初と最後の頁 125-130
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14992/00022702	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 小森真樹	4. 巻 2022
2. 論文標題 マンガは熱くないうちに蒐める ミュージアムにおけるマンガ研究	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 京都精華大学国際マンガ研究センター年次報告書2022	6. 最初と最後の頁 44-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 小森真樹	4. 巻 640
2. 論文標題 コロナ禍で変容する「展示の現場」――第四のミュージアムのデジタル化	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 博物館研究	6. 最初と最後の頁 19-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小森真樹	4. 巻 -
2. 論文標題 女性史美術館へようこそ 展示という語りと語り直し	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 人文学のレッスン	6. 最初と最後の頁 146-170
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小森真樹	4. 巻 37
2. 論文標題 遺体が芸術になるとき 医学博物館が拡張する「芸術」と医学教育の倫理	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 民族藝術学会誌 arts /	6. 最初と最後の頁 126-139
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小森真樹	4. 巻 1
2. 論文標題 美術館の近代を 遊び で逆なでする あいちトリエンナーレ・ラーニングプログラム「アート・プレイグラウンド」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 あいちトリエンナーレ2019 ラーニング記録集	6. 最初と最後の頁 41-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Masaki Komori	4. 巻 35
2. 論文標題 Dead Bodies on Display: Museum Ethics in the History of the Mutter Museum	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Journal of American and Canadian Studies	6. 最初と最後の頁 49-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小森真樹	4. 巻 58
2. 論文標題 座談会 アファーマティブ・アクションとアメリカの「分断」	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 アメリカ研究	6. 最初と最後の頁 1-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小森真樹	4. 巻 55(2)
2. 論文標題 ミュージアムで「キャンセルカルチャー」は起こったのか? 脱植民地化と人体のアイデンティティ政治をめぐる博物館倫理	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 人文学会雑誌	6. 最初と最後の頁 173-206
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小森真樹	4. 巻 40
2. 論文標題 拡張する社会運動の 現場=フィールド K-POPファンダムのブラック・ライブズ・マターとネットミームの連邦議事堂襲撃	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 立教アメリカン・スタディーズ	6. 最初と最後の頁 57-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件(うち招待講演 8件/うち国際学会 1件)

1. 発表者名 小森真樹
2. 発表標題 兵器化する科学主義 両論併記で「天地創造」を科学する博物館
3. 学会等名 立教大学史学会2022シンポジウム 世界史における「学知」の政治的ダイナミズム(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小森真樹
2. 発表標題 コロナ禍におこる社会運動の かたち
3. 学会等名 武蔵大学公開講座
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小森真樹
2. 発表標題 災害の記憶 美術館・博物館・モニュメント
3. 学会等名 「パブリックヒストリーの現在と未来 第一部 拓かれる様々な可能性」パブリックヒストリー研究会二周年記念研究大会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小森真樹
2. 発表標題 現代アートと人類学的想像力ーヴェネツィアピエンナーレと表象批判のゆくえ
3. 学会等名 同時代アートと人類学研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小森真樹
2. 発表標題 変えられる遺体 フィラデルフィアのミュージアムと「芸術」の蒐集・研究・展示
3. 学会等名 日本アメリカ学会年次大会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小森真樹
2. 発表標題 遺体が芸術になるときー医学・美術史・ミュージアム
3. 学会等名 民族藝術学会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小森真樹
2. 発表標題 美術史に「女性」をとりもどす アートと美術館のアクションから学ぶジェンダーと歴史
3. 学会等名 The F-Word（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小森真樹
2. 発表標題 ミュージアム論でYCAMをかんがえる
3. 学会等名 山口情報芸術センター [YCAM] シンポジウム 《YCAMオープンラボ2023 もうひとつの学び場》（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小森真樹
2. 発表標題 拡張する社会運動の 現場 = フィールド K-POPファンダムのブラック・ライブズ・マターとネットミームの連邦議事堂襲撃
3. 学会等名 立教大学アメリカ研究所 シンポジウム「ポピュラーカルチャーと政治」（招待講演）
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 小森真樹
2. 発表標題 柴川敏之 2000年後のなんでそんなん発掘調査展 トークイベント
3. 学会等名 ぬかつくるところ(招待講演)
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 小森真樹	4. 発行年 2021年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 319
3. 書名 『人文学のレッスン 文学・芸術・歴史』(分担執筆「女性史美術館へようこそ 展示という語りと語り直し」)	

1. 著者名 小森真樹	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	5. 総ページ数 34
3. 書名 『FIELDPLUS』(分担執筆「ミュージアムをフィールドにして歴史に思いを馳せる - ミュージアム・オブ・ジュラシック・テクノロジー(LA)」)	

1. 著者名 小森真樹	4. 発行年 2020年
2. 出版社 あいちトリエンナーレ2019	5. 総ページ数 84
3. 書名 『あいちトリエンナーレ2019 ラーニング記録集』(分担執筆「美術館の近代を 遊び で逆なでする あいちトリエンナーレ・ラーニングプログラム『アート・プレイグラウンド』」)	

1. 著者名 小森真樹	4. 発行年 2023年
2. 出版社 博報堂	5. 総ページ数 -
3. 書名 『広告』（分担執筆「共時間（コンテンツポラリー）とモモンズーミュージアムの脱植民地化運動とユニヴァーサルイズムの暴力」）	

1. 著者名 小森真樹	4. 発行年 2024年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 -
3. 書名 『楽しい政治 「つくられた歴史」と「つくる現場」から現代を知る』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>【執筆】 2020年：「コロナ禍のフィールドワークとアメリカのカーデモ」「東京・代々木『ブラック・ライブズ・マター・トーキョー』デモのエスノグラフィー」「ハッシュタグをハックする」「正義の荒らし？」「パブリックヒストリーが開く虐殺の歴史」以上全て『FENICS』/2021年：「追悼アダム・シュレンシンジャー『アメリカ郊外』を笑いに変えるインディーポップマエストロ」「新型コロナウイルスと音楽産業JASPM緊急調査プロジェクト2020」「なぜオルタナ右翼はマンガのカエルを『神』として担ぎ上げたのか？」「講談社現代ビジネス」「アウトサイド」からアメリカを映す」「コンクリートジャングルのカウボーイとカウガール」「お化けと差別に背筋が凍る」「ユダ&ブラック・メシア」とH.E.R. Fight For You」「投票の前には「まだ見ぬアメリカの夢」を観る」以上全て『wezzy』/2022年：「ふたりでアメリカを 何でも見てやるう 中村寛・松尾真『アメリカの 周縁 をあるく』」「図書新聞」「Homo loquens 山城大督《Spatial Tone》評@国立民族学博物館」『-oid』/2023年：「ブラック・アートはなぜ形容詞つきなのか？」「BT美術手帖」1074、「著書紹介『弱者に仕掛けた戦争』」「歴史評論」876、「渋谷バルコから見えざる『日本社会の半分』を表象する」「BT美術手帖ウェブ」「プロダクトデザインとしての装丁」「『聴きながら観る』展覧会 雑談『広告』展評」以上全て『-oid』、「書評『鈍色の戦後』）」「文化資源学」21</p> <p>【翻訳】 「人類学者ロジャー・サンシにきく アートと人類学の未来」 「ウェルカム・トラストのダニエラ・オルセンにきく 医学系財団におけるアートの取り組み」 共に「特集 コロナ禍と協働的なアートのゆくえ」『-oid』1(1)、2022年</p> <p>【企画】 「ウェブ展示 コロナとミュージアムとビクトグラムと」2020年 「アート・リサーチプロジェクトDialogue/Research/Trip」2021年 「ウェブジャーナル -oidオイド」2021年 「展覧会 美大じゃない大学で美術展をつくる vol.1 藤井光 日本の戦争美術 1946 展を再演する」2024年 「シンポジウム 藤井光《核と物》から考える厄災の記憶（藤井光・香川檀）」2024年 「シンポジウム 歴史 に憑依する（藤井光・星野太）」2024年</p>
--

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------